

# 令和5年度第1回大阪府立少年自然の家指定管理者評価委員会 議事概要

- 日 時：令和5年7月31日（月） 15：00～16：30
- 場 所：大阪府新別館南館8階 大研修室
- 委員出席：5名（佐井委員長、有田委員、河野委員、杉本委員、蓬田委員）

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 議 事

- ◆ 令和5年度大阪府立少年自然の家指定管理運営業務の評価票について事務局より資料5-1、資料5-2についての説明

## <質疑応答>

委員長：目標値の設定基準を、コロナ禍前のやり方に戻すということで、過去2年の実績は令和3・4年度のものとなっているが、コロナ禍前の2年間の数値を持ってくるという考え方もあると思う。コロナ禍前の2年間の数値を使うか、直近2年間の数値を使うかどちらが良いか。

事務局：コロナ禍前の数値では、年間利用者数が9万人台後半となっており、今年度の4月から6月の実績からすると、あまり現実的ではない。

委員長：今年度の4月から6月の3か月間で、利用者数は3万7000人に達している。夏休みから秋にかけて、学校団体の利用状況はどうか。

委 員：学校団体としての利用は、秋以降も無いことはないが、一般的には春が多い。

委員長：そうであれば、冬季の利用は少なくなってしまうので、9万人を超えることは厳しいか。

事務局：参考にコロナ禍前3年間における4月から6月の利用者数実績の平均は4万4686人。その数値から考えても、現実的ではないと考える。

委 員：利用者数は戻ってきつつあると思うが、学校では行事の見直しが行われている現状があるため、原案の数値が現実的だと感じる。

委 員：学校行事の見直しが行われているということについて、泉南地域の小中学校は当施設をよく利用している。コロナ前は多くの学校が1泊2日で利用していたが、コロナ禍中に日帰りに変更した。コロナが明けてもそのまま日帰りで実施する学校が多い。学校は行事がコンパクトになるよう見直しを行っている。

委員長：来年度以降、日帰りから宿泊に戻る可能性もあるか。

委 員：そういう学校もあるかもしれないが、コロナ禍以外にも教員の働き方の問題もあり、修学旅行は別だが、泊を伴う行事は見直される傾向がある。文部科学省からも、単にコロナ禍前の姿に戻るのではなく、制限されてきたもののうち真に必要なものを回復させる、という話もある。そういった動向も、このような施設には影響があると思われる。

委 員：そのような前提があるのであれば、定量的評価の設定基準を計算式や数値だけで設定するのではなく、国や市町村の動向や社会の動きも踏まえた上で設定してはどうか。

委 員：これまで施設を見学したり、指定管理者と接したりする中で、熱心さを感じている。以前は学校関係の利用が多かっただろうが、その減少が見込まれている中、指定管理者は学校関係以外の需要を作り出そうとしていた。例えば、中国の方が春節の時期に来ていただくよう働きかけていた。コロナ禍でそこは減ってしまったが戻ってくると思う。そのような行動力を持った指定管理者だと思っている。

先ほどあったように、社会の状況が変わる中で、前年度等の数字を参考にするのが難しいというのは納得したが、数字の根拠は欲しいところ。前年度等の実績を加味した上で、提案書数値や実現可能かどうかも踏まえて、今回の目標値を作られたものと思う。

委員長：指定管理者は、「女性のためのソロキャンプ」事業等、新たな市場開拓をしようと熱心にやっている意欲を感じるが、結局実際の利用者は過去に利用があった方が多く、なかなか新たな客層の獲得に苦労していると思われる。

しかし、大阪府の施設だから多くの利用者に利用していただかないといけないので、数値目標を適切に設定し、それを達成できるよう努力してもらわなければならない。

委員：「主催事業」、「自主事業」、「その他の自主事業」の違いを確認したい。

事務局：「主催事業」は、指定管理者募集の際に府から企画・実施を求めた事業。「自主事業」は、施設の設置目的に応じて、指定管理者が自主的に実施する事業。「その他の自主事業」は、施設の設置目的を損なわない範囲で指定管理者が自主的に実施する事業。

委員：「その他の自主事業」について、参加者人数の提案書数値は260人となっており、令和3、4年度の実績が1,632人、1,400人となっている。コロナ禍前の実績はどうだったか。

事務局：コロナ禍前についても1,000人を超える実績があった。

委員：日常の受入業務に加えて、自主事業の準備をするという面で言うと、多ければ良いというものでもないと考える。職員の働き方改革の観点も必要。

委員：目標値の設定基準について、過去2年実績と提案書数値から算出しているが、現実的な数値になっているか。

事務局：他の施設では、提案書数値を目標値に設定している施設もあるが、より現実的な数値になるよう過去2年実績を加味している。

委員長：指定管理者の提案時には、コロナ禍のようなことで利用者が激変するとは想像もしていなかったと思う。そこも勘案して目標値を設定した年度もあった。しかし、コロナ禍も落ち着いてきたからには、提案した数値には責任を持ち、できれば達成してほしいと考える。

委員長：他に意見がなければ、評価票について事務局案とおりとすることで異議ないか。特に目標値の設定基準について、コロナ禍前の設定基準に戻している。

委員：異議なし。

委員長：それでは、事務局案で進めてもらうこととする。

#### 4 閉 会